

<第3回 川内地区・平佐西地区の浸水被害に関する検討会>

長期的な改善策の提案(ハード対策)

令和3年12月26日

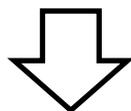
長期的な改善策の提案(ハード対策)

<これまでに住民説明会や検討会で頂いたご意見>

春田川に関する対策	<ul style="list-style-type: none">○春田川上流部の道路がよく冠水するので、対策をしてほしい○春田川の堤防・河川から低い所に住宅街が相当密集しており、そのような所にどのような対策を行っていくのか。今後の対応策を教えてください○草の繁茂や土砂が堆積しているので、撤去をしてほしい
排水機場関係	<ul style="list-style-type: none">○排水機場操作の遠隔化や一部自動化の検討○高齢の水門管理の方が、階段を昇降して操作をしているとの話を聞いたが、操作を連動させることはできないのか

また、今回の事象から、向田排水機場の運転と春田川の水位上昇、春田川に流入する排水路の排水不良等は連動していると考えられ、地形的に一番低い箇所から氾濫がはじまることを確認

このため、国は向田排水機場の確実な操作のための施設の整備を実施するが、近年は洪水が頻発化・激甚化していることをふまえ、施設能力を上回る大雨等も想定されることから、春田川や春田川に流入する排水路等についてのハード面の点検及び改善策の検討が必要



国・県・市で長期的な改善策の提案(ハード対策)を検討

長期的な改善策の提案(ハード対策)

○国(向田排水機場管理者)における取り組み

- ・ 主ポンプの運転操作一つで関連ゲートの開閉や除塵機の運転を連動させる設備改良を行う。
- ・ 急激な水位上昇等により操作員の到着が間に合わない場合や、川内川の氾濫危険水位を上回る洪水により操作員が退避せざるを得ない場合等の非常時に備え、遠隔操作機能を整備する(R3検討着手)。

○鹿児島県(春田川河川管理者)における取り組み

- ・ 春田川については、昭和46年に設置された向田排水機場の排水能力見合いの河川改修を昭和52年から平成6年にかけて実施し、県管理区間の全川約2kmの改修が完了しているところである。
- ・ 春田川は流路延長が約2km、流域面積も約3km²と小さく、短時間で川内川本川に流れ込むため、自己流よりも川内川本川の水位の影響を受ける部分が大きく、川内川合流部の向田排水機場の能力に合わせた改修が必要であると考えている。
- ・ 今年の7月の豪雨では、戦後最大を記録した平成18年の県北部豪雨災害に匹敵する降雨量を観測しているが、シミュレーションの結果では、向田排水機場が操作要領どおり運転がされていれば、浸水被害は大幅に解消できたとのことから、さらなる河川改修については、近年の気候変動に伴う影響をふまえた計画対象降雨の検証や向田排水機場の施設能力の向上も含めて検討する必要があると考えている。
- ・ 県管理河川の整備率は未だ約46%と低い状況にあり、更なる春田川の河川改修については、県内の他の河川の整備進捗状況等をふまえ判断していくこととしている。
- ・ 当面の対策としては、寄洲の除去や伐採などにより流下断面を確保するなどの対応を行うこととしている。

○薩摩川内市(排水路管理者)における取り組み

- ・ 市街地部における公共施設を利用した貯水機能施設整備等による流域流出抑制の検討
- ・ 春田川河川管理者である県との協議をふまえ、河川樋管等に門扉設置の検討